

【取扱い厳重注意】

平成23年9月5日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局員 飯崎 準

平成23年9月2日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

福島県大熊町役場	生活環境課長	石田仁
	同 主幹	武内佳之
	同 課員	荒木和治

2 聴取日時

平成23年9月2日午前10時00分から同日午前11時40分まで

3 聴取場所

大熊町役場会津若松出張所

4 聴取者

飯崎補佐

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし（理由：（「対象者の希望による。」など簡潔に記載））

第2 聴取内容

避難措置について
別紙のとおり

第3 特記事項

添付資料あり（添付資料1及び2）

【取扱い嚴重注意】

別紙

1 被聴取者の身分

石田生活環境課長は住民避難等の原子力災害対応を[]していた者、武内主幹は住民避難を担当していた者、荒木氏は、当時生活環境課[]として避難誘導状況のとりまとめを担当しており、3/31で定年退職した後に再雇用され、引き続き住民対応を行っている者である。

2 3/12の避難状況(特に「熊地区」)における避難誘導状況)について

前回お話したとおり、第一原発の職員2名が3/11の午後8時過ぎ頃から町役場に駐在し、プラント状況の説明などリエゾンのような役割をしており、プラント情報は、この二人から入手していた。

また、3/11夜半に、国土交通省からバスを70台手配したとの連絡があり、3/12の午前2時か3時頃には、バスが大熊町内に手配され、町役場西方向の県立病院跡地に止めさせている。今回は、70台が既に手配されていたと話しているが、この段階で職員が数えたところ、ざっと40数台程度であったということなので、訂正する。

役場でまとめた記録によると、午前5時45分頃、細野総理補佐官から町長に、避難区域が第一から10kmに拡大されるという連絡があり、午前6時9分には防災行政無線で全地区に対して、各地区の集会所に集まった上で、役場で用意したバスに分乗して避難するように呼びかけている。

大熊町には、行政区が20地区程度あり、そのうち、国道6号を境に海側の地区は、概ね第一原発から3km圏内に該当するものの、津波による避難を既に行っていたため、3/11の夜中には3km圏外への避難を完了しており、バスによる誘導は、[]

そのうち、[]「総合体育館」と「大熊中学校」は、第一原発から3km以上離れているものの、比較的近距离に該当するため、ここからバスによる避難を先行させることにした。総合体育館には、前日の津波による避難や、第一原発から3kmの避難指示によって、第一原発から避難してきた従業員もおり、3/12の未明の時点で少なくとも2000名が既に詰めていた。総合体育館での避難は、[]午前6時30分から開始されているが、40数台のバスをすべて活用して[]ピストン輸送の結果、午前9時頃に[]乗車を完了させている。また、他の地区については、総合体育館及び大熊中学校での避難誘導を終えた上で、戻ってきた便で拾う形になった。

総合体育館と大熊中学校を終えた後、第一原発から近い熊町地区、熊1～3区、野馬形などにバスを向けて避難させている。

東電の公表資料では、「熊地区」という名称が出てくるそうだが、私どもは「熊地区」という言い方はしないため、お尋ねの「熊地区」という行政区がどこを指すのかは分かりかねるが、合併前の旧熊町は、熊町地区、熊川地区、熊1～3区の5区に該当するた

【取扱い嚴重注意】

め、これら5区を指して使っているのかもしれない。

記録によると、熊町公民館は特にお年寄りが多く集まっていたことから、午前8時30分～午前9時頃の間、スクールバスを1台派遣して、優先的に避難誘導を行い、残りの住民は、午前10時頃に到着したバスに乗せて避難させている。また、熊1区では午前10時頃、熊2区では午前10時～10時30分に、熊3区では午前12時頃にバスが到着し、避難誘導を開始している。これら地域での避難誘導が午前10時前後開始になっているのは、前述のとおり、総合体育館及び大熊中学校における避難誘導を終えたバスが拾う形になったためである。

東電が公表している時系列では、3/12の午前8時27分に、「大熊町の一部で避難が完了していないとの情報を確認」と記録されているとのことであるが、この時点では、大熊町の第一原発から3～10km圏内では、避難が完了している地区はなく、ピストン輸送を行っている最中で、一部どころか全く完了していなかった。

この連絡は、役場に派遣されていた東電の社員が第一原発に報告したものとのことであるが、役場職員から東電社員に「避難が完了していない」旨を第一原発に連絡するよう頼んだ者はおらず、役場による情報収集を見ていた東電社員が自発的に入れたのではない。

10km圏内で最も第一原発から離れた大川原地区で避難が開始されたのは正午前位になっていた。

そして、一部の職員を役場に残して、他の役場職員を乗せたバスが役場を出発したが、14時30分頃と記録されており、この時点では、避難が完了していない集会所はなかったと報告されている。

避難先である田村市の避難所には、全部で6000名くらいの住民が避難していたため、最終的にバスは70台くらいに増えていたのかもしれないが、それでも、ピストン輸送しながらようやく14時30分前頃にすべての避難住民の乗車が完了したという状態であった。昼過ぎには、田村市へ向かう道路が大渋滞していたため、全住民が田村市に到着したのは夕方になっていた。

東電が公表している時系列では、午前9時3分に「大熊町（熊地区）の避難完了を確認」と記録されているとのことであるが、午前9時頃に避難が完了していたのは、総合体育館及び大熊中学校のみである。

前述のとおり、「熊地区」という名称がどこを指したものなのかは分からないが、熊川、熊町、熊1～3区を指すのであれば、前日に避難が完了していた熊川地区を除き、午前9時段階で避難が完了した地区はないので東電の記録とは異なる。熊町公民館では、午前8時30分～午前9時頃に、スクールバスでお年寄りを優先して避難させているが、この時点で熊町地区全体の避難が完了した訳ではない^{*1}。

役場内では、消防団や役場職員からの無線連絡を受け、それを大型ポスターを裏返し

*1 当時、多くの町職員が集会所に向いて避難誘導業務に携わっていたことから、町役場に残っていた職員は少なく、役場での避難状況の把握作業は困難を極めていたとのことであり、総合体育館及び大熊中学校での避難が午前9時頃に完了したとの情報並びに熊町公民館で午前8時30分～9時頃にスクールバスによる避難を開始したとの情報をもって、東電社員が「避難が完了した」と誤解した可能性がある（聴取者注）。

【取扱い厳重注意】

て壁に貼り付けて、白面にマジックで記載しながら避難状況を集計していた。

なお、マイカーによる避難ではなく、バスによる避難を指示した理由は、事前の防災訓練では、交通渋滞を回避するために、可能な限りバスによる避難を求めているためであり、極力バスによる避難に努めたものである。

3 第一原発から半径3km圏内への一時立入りについて

第一原発から半径3km圏内については、当初一時立入りの除外地域になっていたところ、8月9日、原子力災害対策本部が、立入者の安全を十分確保した上で、3km圏内への一時立入りを認めることとする旨を発表しており、これを受け、大熊町では、9/1に実施している。

[REDACTED]

国が示した一時立入りの基準値が $200\mu\text{Sv/h}$ とされているため、いずれもこの値を下回る値ではあるが、非常に高い値を観測しており、残念な思いである。

以 上



